

首里城美術工芸品等管理委員会
報告書
【概要版】

令和3年3月26日

首里城美術工芸品等管理委員会

1. 首里城美術工芸品等管理委員会の概要

(1)はじめに

文化財は、我が国の歴史や文化の理解に欠くことのできない貴重な国民的財産であり、将来の発展向上のためにはなくてはならないものである。また、将来の地域づくりの核になるものとして、確実に次世代に継承していくことが求められる。

文化財は、火災等によりいったん滅失毀損すれば、再び回復することができず、こうした貴重な文化財を確実に次世代に継承するに当たっては、防火対策は欠くことのできない取組である。

令和元年 10 月 31 日に国指定史跡で世界遺産でもある首里城跡にて火災が発生し、首里城正殿等を含む主要復元建物群が焼失した。史跡等に所在する建造物や建造物群は、国宝・重要文化財に指定されていなくても往時の姿を伝えるものであれば、来訪者にとって史跡等の文化財的価値や歴史的事実を理解することに資するとともに、史跡等の魅力向上につながる重要な役割を果たすものである。

当委員会は、沖縄の貴重な歴史文化遺産の適切な保存を図ることを目的として、令和元年度と令和2年度の間計4回の委員会を開催し、首里城美術工芸品の被害状況の確認、美術工芸品の管理方針の策定、美術工芸品の修理および復元計画の策定、美術工芸品特別展示・特別収蔵施設への提言のとりまとめを行った。さらに、絵画・書跡・漆器・染織・陶磁器・その他毎に各委員が専門分野のワーキングを担当・開催し、美術工芸品の状態確認調査や修理および復元に関する助言を行った。

(2)委員の構成

委員長	たから くらよし 高良 倉吉	琉球大学名誉教授（歴史）
委員	あきと すずむ 安里 進	沖縄県立芸術大学名誉教授（漆芸史）
〃	だ な まさゆき 田名 真之	沖縄県立博物館・美術館館長（歴史）
〃	はやかわ やすひろ 早川 泰弘	東京文化財研究所保存研究センター長（保存科学）
〃	みなと のぶゆき 湊 信幸	東京国立博物館 元副館長（絵画）
〃	むろせ かずみ 室瀬 和美	東京藝術大学客員教授（漆芸家）
〃	もり たつや 森 達也	沖縄県立芸術大学教授（陶磁器）
〃	よな みねいちこ 與那嶺一子	沖縄県立博物館・美術館 主任学芸員（染織）

(3)事業の経緯

	令和元年度	令和2年度	令和3年度以降
美術工芸品等管理委員会	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">R元.12.10 第1回</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">R2.3.3 第2回</div> </div> <p style="text-align: center;">把握 審議</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">R2.11.25 第3回</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">R3.3.11 第4回</div> </div> <p style="text-align: center;">審議 審議</p>	
分野毎ワーキング	<p style="text-align: center;">R2.1 絵画</p>	<p style="text-align: center;">R2.6 漆芸 R2.10 漆芸・染織 R2.12 染織</p>	
美術工芸品の被災の把握（所在・状態確認調査）	<p>R1. 11～ 所在確認調査</p> <p style="text-align: center;">R2.1 絵画 R2.3 染織</p> <p>R元.11 絵画・漆芸 R2.2 漆芸・金工</p>	<p>R2.6 漆芸 R2.10 漆芸・染織 R2.12 染織 R3.2 書跡・陶磁器</p> <p>R2.9 陶磁器・絵画・書跡・染織 R2.11 漆芸 R3.3 漆芸</p>	
保存及び修理・復元に係る課題の抽出	<p style="text-align: center;">R2. 1～ 課題の抽出</p>		<p style="text-align: center;">●■■■■■■■■■■ 修理・復元の実施</p>
今後の取り組み方法等の検討・整理	<p style="text-align: center;">R2. 1～ 【提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査と修理を担う分野別ワーキング設置 ・美術工芸品等管理方針（短期・中長期） ・展示・収蔵施設への提案 	<ul style="list-style-type: none"> ●—————● ・修理計画検討 ・計画とりまとめ ●—————● ・方法検討 ・マニュアル策定 ●—————● ・収蔵庫確保の検討 ・提案とりまとめ 	

2. 美術工芸品の被害の確認

首里城美術工芸品の被害は前例のない規模である。その全容を把握し、今後の美術工芸品の保存および修理・復元に生かしていくことが望まれる。

(1) 所在・状態確認調査の経緯

令和元年 11月～令和3年 3月	所在確認調査・状態確認調査
令和元年 11月 11日	絵画状態調査
令和元年 11月 27日	漆芸調査
令和2年 1月 8～9日	絵画状態調査及びワーキング
令和2年 2月 7日	公園内残存資料収集作業実施
令和2年 2月 17日	漆芸品及び金工品調査
令和2年 2月 26日、3月 6～7,14日	染織状態調査
令和2年 6月 4日	借用埋蔵文化財状態確認調査
令和2年 6月 15～16日	漆芸状態調査
令和2年 6月 17日	漆芸ワーキング
令和2年 9月 9～10日	陶磁器・絵画・書跡状態調査
令和2年 9月 11日	染織状態調査
令和2年 9月 23日	染織状態調査
令和2年 10月 13～15日	漆芸調査及び漆芸ワーキング
令和2年 10月 23日	染織ワーキング
令和2年 11月 25～26日	漆芸調査
令和2年 12月 28～29日	染織ワークショップ
令和3年 2月 10日	書跡の復元に関する打合せ
令和3年 2月 25日	陶磁器資料状態調査
令和3年 3月 12日	漆芸調査



南殿特別展示室からの搬出作業



寄満特別収蔵庫からの搬出作業



漆器の状態確認調査



染織ワーキング（クリーニング措置）

(2)所在・状態確認調査の結果

火災前の美術工芸品 1,510 点のうち、1,119 点が焼失を免れ現存している。各分野の有識者・専門家による状態確認調査を実施し、熱害や水害の影響による劣化状況の把握と、修理が必要な点数を確認した。

状態確認調査の結果

	火災前 総収蔵数	火災後 総収蔵数	状態	
			修理不要数	要修理数
絵画	183	156	150	6
漆器	487	285	4	281
染織	306	302	283	19
書跡	125	106	101	5
陶磁器	127	46	25	21
金工品・その他	282	224	192	32
合計	1,510	1,119	755	364

① 絵画

1) 被害状況

焼失を免れた 156 点のうち、6 点に被害があり、表装具に火災による熱や、消火の際の水分による影響で膨れや浮きが生じていることが確認された。

a. 御後絵

黄金御殿特別展示室にて尚育王（デジタル複製）が焼失し、寄満特別収蔵庫内に保管されていた 3 点の内、尚育王（復元模写）・尚灑王（復元模写）とともに火災による劣化が見られる。

一部補彩等の修復は困難であり、再度彩色模写することを検討する。

・掛軸としての形態は保っており、今後の保管場所が安定していれば、この状態でもしばらくは保管できると考える。

状態確認調査結果の一例「尚育王の御後絵」

劣化状況（●劣化部分）



b. その他絵画

現時点の傷みや劣化・損傷が火災の影響なのかどうか判断できないものが多いが、調査で明らかになった劣化・損傷は次の i～iii に分類できる。保存箱の傷みや劣化は iv とする。

i) カビ様の白色物質が発生している資料

・ 収蔵No.596「闘鶏はなたれ之図」、収蔵No.597「闘鶏花房之図」、収蔵No.598「闘鶏早房之図」の三点について、表装裂（上、下）にカビと思われる白色物質の付着が多数みられた。

→ 沖縄県立博物館の協力により、この三資料に対するカビ払いを1/8 に直ちに実施し、その後、改めて保存箱に保管した。他の資料とはできる限り別置保存とした。

ii) 膨れや浮きが生じている資料

・ 本紙や表装部分に膨れや浮きが生じている資料がいくつか見られる。火災による熱の影響が大きいと思われる。

iii) 金属腐食が生じている資料

・ 収蔵No.608「山茶華図」の軸部中央付近で鉛と思われる金属の腐食による体積膨張により表装の亀裂が生じている。寄満収蔵庫で木箱底部が水浸した収蔵No.266「那覇港図」でも金具の一部にわずかな腐食が確認できるが、火災の影響による被害か判断が困難である。

iv) 保存箱の汚れ・損傷が生じている資料

・ 収蔵No.14「虎之図」の赤漆塗木箱の漆塗膜に激しい浮きが確認できる。その他、寄満収蔵庫に仮置きされていた資料などで、外箱（紙）に濡れ染みが見られる品がいくつかある。

2) 修理の検討

当面は外箱表面や表具に付着した煤やカビのクリーニングを行うことが望ましい。本紙や表装部分に膨れや浮き等の劣化が生じている資料については、解体修理を行う必要がある。軸首の膨張など本紙を傷つける恐れのある資料については、早急に軸首の取り換え修理を行う事が望ましい。

また被害の状況が安定し、修理が困難な資料については、定期的に経過観察することが望ましい。

劣化被害に合わせ、軽度な被害の資料については県内にて修理を行い、被害の重度な資料については県外の修復家へ依頼する。定期的に修理を依頼する事で人材育成を行うべきである。

3) 復元の検討

焼失した27点のうち、近世琉球の絵画として重要な雪中花鳥図、また火災による影響を受けて変色等の劣化が見られる尚育王御後絵を選定した。

模造復元は琉球絵画の復元実績がある東京芸術大学、また共同作業を行った沖縄県立芸術大学の人材も対象として、製作を依頼する方法が考えられる。

② 漆器

1) 被害状況

焼失を免れた 285 点全ての状態確認調査を実施した。被災当日外部へ貸し出されていた 4 点を除き、すべてに梱包時の包装薄紙の付着や、漆塗膜の浮き・剥落・亀裂・変色、顔料の変色、螺鈿貝の浮き、金箔の剥がれ、木部の変形等の劣化が見られた。展示室にて煤を被った 2 点については、応急処置的な修理を終了した。今後の修理方法を検討するため被害の大きい 1 点について 2 年間かけての本格修理に着手している。また、漆器に付着した薄紙を簡易的に剥がす作業を行った。

状態確認調査結果の一例「黒漆雲龍螺鈿長方形東道盆」



2) 修理の検討

これまでの文化財的な修理方法を用い、浮いた塗膜片の接着、表面クリーニングを行う。

■ 緊急措置について

火災当時に南殿に展示中であった提重は、煤を被る被害を受けたため、緊急的に煤の除去を行った。水やアルコールを使用し丁寧に作業を進めたが、すでに固着化している部分や熱による塗膜劣化がある箇所については、本格修理の際に対応することとする。

措置前



措置後



措置前



措置後



■薄紙剥がしについて

漆器に貼り付いた薄紙を剥がす作業を実施した。筆に精製水を含ませ薄紙を濡らし、漆や加飾が剥がれないよう、慎重に薄紙を剥がした。また、火災後の水濡れによって生じたカビの除去も並行して行った。軽度の紙剥がし作業は今後、沖縄県立芸術大学大学院を修了し漆器修復を志す若手の作業補助を実施する予定である。

薄紙剥がしの様子



a. 修理等短期計画

漆器の劣化については、火災による熱の影響とそれに伴う水分移動による影響に大別できる。これまでほとんど経験のない被害状況である。そのため慎重に実施する必要があることから、比較的軽度な被害の漆器から修理を開始し、被害の大きな県指定漆器については、方法を検討した後に修理を行うことが考えられる。

また、薄紙が漆器に付着し状態調査が困難な漆器も多数存在するため、並行して薄紙を慎重に剥離させ、クリーニング作業を実施することが望ましい。

b. 修理等長期計画

次年度実施する薄紙剥離作業を行いながらより長期的な修理計画を策定する。現在の想定では、毎年県外で2点程度、県内で軽度な被害を受けた漆器を含め2点以上修理を並行して実施し20年程度を要すると考えられる。

c. 実施体制・作業場所の確保

修理方針、技術指導については技術検討委員会を設けて内容を検討しながら進めることが適切である。

実施体制・作業場所としては、これまでの沖縄美ら島財団所蔵漆工品の修理経験および経緯を踏まえ、当面、沖縄と東京の二箇所で行う事が望ましい。

全体的な修理スケジュールを繰り上げたい場合は、九州国立博物館の修理室、あるいは東京藝術大学文化財保存研究室などに協力を求めることも考えられる。

長期間にわたる修理作業が見込まれ、沖縄美ら島財団によって特別収蔵庫が確保されることを受けて、同じ施設内にて作業場所の確保を検討すべきではないか。

3) 復元の検討

黒漆菊花鳥虫沈金食籠、黒漆牡丹七宝繫沈金食籠、黒漆日輪鳳凰点斜格子沈金丸櫃と正殿や北殿に常設展示されていた扁額については、首里城内の装飾として貴重であることから選定した。

模造復元事業は実績を有した県内から意欲のある担い手を選出し、各工房等にて製作していく方法が考えられる。

③ 染織

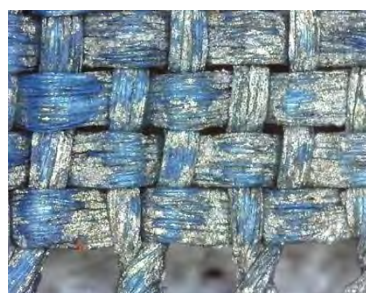
1) 被害状況

焼失を免れた 302 点のうち、19 点に被害が確認された。寄満収蔵庫内に保管していた品については、高熱と高湿による顔料の変色、染料の褪色、生地の変質等が確認された。顔料については、臙脂、墨の単色、ベロ藍と鉛白、臙脂と鉛白と墨の混色といった色材に変色・変質が見られた。生地のうち、芭蕉や苧麻については変化が見られず、絹・木綿製の染織品に被害があり、特に絹については、大きな被害が見られた。南殿に展示中であった品については、高熱による熱焼け跡と煤の付着が確認された。

状態確認調査結果の一例



繊維内に煤の粒子が入り込んだ状態



青色が灰色に変色した状態



高熱・高湿で絹繊維が硬直した状態

2) 修理の検討

染織の被害は（熱焼け、煤付着、色材の変色・退色、しみ、絹繊維の硬直化、皺の発生など）多様であるが、このうち資料3 点程を見ながら、煤付着、皺の発生、硬直化に対する処置方法を検討した。



繊維に柔軟性を取り戻す方法と、皺を伸ばす方法の検討

3) 復元の検討

焼失した 4 点のうち、寄託資料であった中国衣裳 1 点、加えて火災により、変色やシミ、基布が変性する等の大きな影響を受けた、紬黄色地ムルドウッチリ袷衣裳、絹織染分地鶴と松梅菊両面紅型胴衣、絹黄色地梅楓桜雪輪手鞠文様紅型袷衣裳の 3 点を選定した。

模造復元は沖縄県立博物館・美術館の事業として行われた模造復元事業の従事者から製作技術に合致した工房等にて製作していく方法が考えられる。

④ 書 跡

1) 被害状況

焼失を免れた 106 点のうち、火災による被害ではない可能性も含めて 5 点に塗膜浮き、カビの付着、木枠塗膜剥落及び錆などの劣化が確認された。

2) 修理の検討

当面の作業として、外箱表面や表具に付着した煤やカビのクリーニングを行っていく。また被害の状況が安定し、修理が困難な資料については、定期的に経過観察することが望ましい。

3) 復元の検討

焼失した 19 点のうち、組踊展にて展示中であった尚育王書や冊封使の書があり、琉球王国の中でも非常に貴重な。尚育王筆「地静春」対句、首里八景詩、尚育王書など 7 点を選定した。

模造復元は沖縄美ら島財団が行った三御飾道具類復元事業に関わった経験を有する沖縄県内の書道家等に模写を依頼しての製作、紙や墨などできる限りオリジナルに近い材料、道具を整えて実施することが望ましい。

⑤ 陶 磁 器

1) 被害状況

焼失を免れた 46 点の内 21 点について、修理をすることとした。

2) 修理の検討

割れて破片になった状態の品について、クリーニング作業及び接着作業を進めることが望ましい。破片が多数存在することから、文化財的な接合修理と簡易的な接合修理に分け、さらに接合せずに保管し火災による被害を表す資料に分け、すべて保管しておくことが望ましい。接合については、エポキシ樹脂系の接着剤を使わずに可塑性確保するのが適切である。加えて修理後は新たに箱を製作し保管することが望ましい。

3) 復元の検討

焼失した 81 点は近代の日本製が多く、また火災による影響でこれまでと同様に展示することが困難な資料もないことから、模造復元を行う必要性は低いと考えられる。

⑥ 金工品・その他

1) 被害状況

焼失を免れたのは224点であった。金工品は37点のうち20点が、歴史資料は214点のうち32点が、民俗資料は16点のうち6点が、焼失した。刀剣は10点全てが、石彫は5点全てが、焼失を免れた。刀剣に煤の付着、漆塗り部分の熱による被害、熱と水による錆が見られた他、金工品の一部に経年劣化による錆が見られた。

2) 修理の検討

刀剣については、表面に付着した煤をはらう緊急的なクリーニングを行った。熱による被害を受けている鞘の部分の漆塗りについては、今後、本格的な修理が必要と考えられる。また、青貝巴紋散合口拵については、螺鈿貝の浮きが一部確認されたほか、筭に錆が見られたため、今後、防錆処理等の処置の施しを検討することが望ましい。

修理を担う体制については、県内では技術者の情報がない状況であるため、人材育成が必要と考えられる。一部の文化財については、県立埋蔵文化財センターの接合技術による保存が検討される。また、ガラス玉装飾品については実績がある（公財）美術院 国宝修理所（京都）への依頼がよいと考えられる。

3) 復元の検討

焼失した資料58点の内、多くはレプリカや近代以降の資料となっており、復元模造された玉冠琉球国王印の2点を選定した。

沖縄美ら島財団が行った模造復元事業や沖縄県立博物館・美術館が行った模造復元事業に関わった経験を有する業者を依頼し制作する。新たな知見などがある場合は、更に検討を行い製作することが望ましい。

⑦ 借用資料

1) 被害状況

借用資料14点のうち書跡2点が焼失した他、衣裳1点が半焼しており、金属資料に熱と水の被害による錆の発生が見られる。

借用資料（展覧会のため借用）



千字文書



兜の前立て

2) 修理の検討

借用した書跡のうち、「林鴻年書聯句」については資料2点の修復を行っている。

金工品については、熱と水による被害により全体的に錆が発生しており、今後さらに錆が広がる可能性が高いため、錆の除去や防錆処理を行っている。また、錆の下層に鍍金が残っている可能性があるため、あらかじめ科学調査を行うことが望ましい。

3) 復元の検討

焼失した「千字文書」1点をデジタル複製製作が行われている。半焼した組踊道具資料は、同等品の布について、材料が整い次第、再製作を依頼することが望ましい。

3. 美術工芸品の修理および復元に関する提言

美術工芸品の修理および復元については、各分野に共通する全体方針を設定し、計画的に実施していくことが望ましい。

(1) 美術工芸品の修理および復元の方針

美術工芸品の修理および復元の方針は、以下のとおりとすることが望ましい。

美術工芸品の修理の方針

修理の程度・範囲	<ul style="list-style-type: none"> 美術工芸品等のオリジナルの価値を損なわないよう、現状維持を原則とし、修理もその範囲で行う。 修理によって、美術工芸品等が持つ情報が失われてしまう可能性もあるため、できるだけ事前に情報を収集・記録する。
修理の優先順位	<ul style="list-style-type: none"> 美術工芸品等の劣化が進行・拡大し続けている場合、できるだけ早急に、これ以上の進行・拡大を止めるための処置を施す。 修理の経歴がない美術工芸品は、修理の経歴がある品に比べて、災害時に受ける被害が大きくなる傾向があることから、なるべく早い時期に修理を行う。 たとえ被害が大きくとも、劣化が進行・拡大する恐れがなく状態が安定している場合は、急がず可能な時期に修理を施すことでよい。 他館から借用した美術工芸品に被害を与えた場合は、それを優先的に修理する。
修理の方法	<ul style="list-style-type: none"> 美術工芸品の修理を担う人材は、保存技術の保持者や保持団体、保存技術の修得者として認められ実績がある者とする。 模造復元等の実施にあたっては、分野毎の有識者・専門家に監修いただき指導・助言を得ながら進める。 修理にあたって、美術工芸品等のオリジナルと同等の伝統的な技術（工法）や材料（天然素材）を用いることを基本とし、それでできない部分については現代的な技術や材料の導入も視野に入れる。 修理部分については、オリジナル部分と区別できるようにし、また後の時代に配慮して可逆性（元に戻すことができる）を持たせることが望ましい。 修理に関する情報（年月日、場所、関わった人材、用いた技術・材料、修理箇所の写真）を、文字や写真等により記録する。

美術工芸品の復元の方針

復元の程度・範囲	<ul style="list-style-type: none"> 美術工芸品等のオリジナルが製作された当時の姿にできるだけ忠実に、製作された当時とできるだけ同じ技術や材料を用いて、模造復元により製作することとする。 模造復元については、オリジナルが歴史上重要な背景を持ち、その分野を代表する優れた意匠・技法を有し、復元する価値がある品を対象とする。
模造復元の優先順位	<ul style="list-style-type: none"> 模造復元は、オリジナルの情報ができるだけ多く残されているうちに行うことが望ましいため、消失した品、劣化の進行・拡大が著しい品、被害の大きい品の順とする。 他館から借用した美術工芸品に被害を与えた場合は、それを優先的に模造復元する。
模造復元の方法	<ul style="list-style-type: none"> 美術工芸品の模造復元を担う人材は、伝統的技術の保持者や保持団体、伝統的技術の修得者として認められ実績がある者とする。 模造復元等の実施にあたっては、分野毎の有識者・専門家に監修いただき指導・助言を得ながら進める。 模造復元にあたって、美術工芸品等のオリジナルと同等の伝統的な技術（工法）や材料（天然素材）を用いることを基本とし、それでできない部分については現代的な技術や材料の導入も視野に入れる。 分野によっては、外観再現を主とした製作（レプリカ：高精細印刷、樹脂模型など）方法で実施することを検討する。 模造復元に関する情報を、文字や写真等により記録する。

(2)美術工芸品の修理および復元の年度計画(案)

美術工芸品の修理や復元の年度計画(案)については、以下のとおりとすることが望ましい。

絵画

分類	番号	収蔵品番号	作品名	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
修理	1	596	闘鶏図 はなたれ之図											
	2	597	闘鶏図 花房之図										修繕	
	3	598	闘鶏図 早房之図										経過観察	
	4	14	虎之図										模造復元	
	5	842	中山門図											
	6	838	尚瀨王御後絵(彩色模写復元)											
模造復元	1	577	尚育王御後絵											
	2	601	雪中花鳥図											

漆器

分類	番号	収蔵品番号	作品名	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
修理	1	360	黒漆日輪鳳凰点斜格子沈金丸櫃											
	2	68	黒漆日輪双龍鳳凰螺鈿軸盆										修繕	
	3	228	黒漆牡丹七宝繫沈金食籠(県指定)										経過観察	
	4	343	黒漆宝尽漆絵螺鈿書見台										模造復元	
	5	346	朱漆湯庫											
	6	369	朱漆山水楼閣人物絵皿											
	7	64	黒漆牡丹文七宝繫沈金足付盆											
	8	190	黒漆獅子螺鈿中央卓											
	9	193	黒漆雲龍螺鈿盆		検討									
	10	348	朱漆花鳥漆絵密陀絵壺											
	11	359	黒漆牡丹七宝繫沈金丸櫃											
	12	367	朱漆巴紋鳳凰七宝繫沈金丸櫃											
	13	73、74	酒塗葡萄栗鼠螺鈿箔絵料紙箱・硯箱											
	14	58	騎馬人物堆彩盒子											
	15	196	朱漆山水人物箔絵丸櫃											
	16	683	朱漆牡丹唐草沈金卓											
	17	294	黒漆菊花虫蝶七宝繫沈金食籠(県指定)											
	18	296	緑漆牡丹唐草石畳沈金膳											
	19	362	黒漆牡丹唐草沈金食籠											
	20	371	朱漆山水楼閣人物箔絵漆絵皿											
	21	372	朱漆宝尽箔絵方盆											
	22	49	朱漆巴紋牡丹沈金透彫足付盆											
	23	51	黒漆牡丹唐草螺鈿提重											
	24	98	黒漆日輪鳳凰雲点斜格子沈金丸櫃											
	25	331	黒漆葡萄栗鼠螺鈿箔絵机											
	26	456	朱漆山水楼閣人物箔絵湯庫											
	27	46	朱漆蓮鷺密陀絵角盆											
	28	330	黒漆葡萄栗鼠螺鈿箔絵料紙箱・硯箱											
	29	363	黒漆菊蝶七宝繫沈金食籠											
	30	848	朱漆牡丹唐草七宝繫沈金足付盆											
	31	47	朱漆花鳥獸箔絵椀											
	32	67	緑漆牡丹鳳凰沈金角盆											
	33	194	黒漆山水楼閣人物螺鈿硯屏											
	34	849	朱漆花鳥密陀絵箔絵足付盆											
	35	277	黒漆獅子牡丹螺鈿印籠											
	36	445	朱漆三巴文盆											
	37	455	黒漆山水楼閣人物螺鈿八角食籠(台盆付)											
	38	508	黒漆雲竜螺鈿長方形東道盆											
	39	327	黒漆雲龍長方盆											
	40	338	黒漆山水楼閣螺鈿角切盆											
	41	695	黒漆山水楼閣螺鈿中央卓											
	42	133	黒漆山水楼閣螺鈿中央卓											以降継続
	43	337	黒漆龍鳳螺鈿網代食籠											以降継続
	44	78	朱漆鳳凰雲椿沈金硯箱四段重											以降継続
	45	72	朱漆寿老人沈金螺鈿箔絵四段重											2030年以降
	46	328	朱漆花鳥螺鈿器局											2030年以降
47~281		※要検討(2030年以降)												

※要検討:今後、財団において調査の上、計画することが望ましい。

漆器

分類	番号	収蔵品番号	作品名	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
模造復元	1	360	黒漆日輪鳳凰点斜格子沈金丸櫃											
	2	294	黒漆菊花虫蝶七宝繫沈金食籠(県指定)											
	3	228	黒漆牡丹七宝繫沈金食籠(県指定)											以降継続
	4	140	康熙皇帝御書扁額「中山世土」											
	5	320	雍正帝御書扁額「輯瑞球陽」											
	6	321	乾隆帝御書扁額「永祚瀛壖」											以降継続

修繕
経過観察
模造復元

染織

分類	番号	収蔵品番号	作品名	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
修理	1	253	催事用團王唐衣裳一式	煤除去作業										
	2	523	稲妻に雪輪と団扇に吉祥花と鶴亀文様紅型(桃色)	煤除去作業										
	3	114	木綿白地稲妻に雪輪菊松竹梅紅型単衣裳											
	4	115	木綿白地雪輪菊稲妻に龍の丸文様両面紅型単衣裳											
	5	287	絹黄色地梅楓桜雪輪手鞠文様紅型袷衣裳											
	6	301	紬黄色地ムルドウッチリ袷衣裳											
	7	302	芭蕉経緯緋衣裳											
	8	305	絹浅地ロートン織衣裳											
	9	306	芭蕉ト一十字緋単衣裳											
	10	308	紬黄色地ムルドウッチリ袷衣裳(琉装)											
	11	462	染分地木綿松竹雲に燕遠山紅型袷衣裳											
	12	465	絹織染分地鶴と松梅菊両面紅型胴衣											
	13	469	白地菊梅紅型単衣裳											
	14	477	木綿絹緋地手鞠袷衣裳											
	15	519	琉球春村に瑞華文様紅型(青色)											
	16	520	琉球春村に瑞華文様紅型(桃色)											
	17	521	稲妻に雪輪と団扇に吉祥花と鶴亀文様紅型(黄色)											
	18	524	牡丹鳳凰丸模様紅型(黄色)											
	19	525	牡丹鳳凰丸模様紅型(青色)											
模造復元	1	借用	入道頭巾(半焼)	生地製作	頭巾製作(完成)									
	2	寄託	絹紗青色地龍文衣裳(仮称/全焼)		資料調査 製作設計	材料確保	試作 糸染め	絹織地に縫取織製作						修繕
	3	465	絹織染分地鶴と松梅菊両面紅型胴衣		資料調査 製作設計	材料確保	型絵・型紙 製作	絹織絹布 製織	試作・本製作(紅型染め)					経過観察
	4	287	絹黄色地梅楓桜雪輪手鞠文様紅型袷衣裳		資料調査 製作設計	材料確保	型絵・型紙 製作	平織絹布 製織	試作・本製作(紅型染め)					模造復元
	5	305	絹浅地ロートン織衣裳				資料調査 製作設計	材料確保	型絵・型紙 製作	平織絹布 製織	試作・本製作(紅型染め)			
	6	301	紬黄色地ムルドウッチリ袷衣裳					資料調査 製作設計	材料確保	型絵・型紙 製作	平織絹布 製織	試作・本製作(紅型染め)		

書跡

分類	番号	収蔵品番号	作品名	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
修理	1	44	朱漆七言聯(対)その1											
	2		朱漆七言聯(対)その2											
	3	495	冊封使:汪楫書(聯)その1											
	4		冊封使:汪楫書(聯)その2											
	5	661	「雨義社」											
模造復元	1	859	尚育王筆「地静春」対句											
	2	581	尚育王書											修繕
	3	652	首里八景詩											経過観察
	4	651	千字文書											模造復元
	5	644	書画扇面(対幅)											
	6	436	高人鑑書											
	7	494	冊封使高人鑑書											

陶磁器

分類	番号	収蔵品番号	作品名	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
修理	1	819	呉須線彫牡丹文酒注(壺屋焼)											
	2	841	水盤											
	3	722	琉球焼 龍水差											
	4	727	琉球色々盃											
	5	729	耳付壺											
	6	731	焼締四耳壺											
	7	741	掛分瓶子(壺屋焼)											
	8	275	正殿軒瓦											
	9	714	香炉											
	10	718	多聞天立像											
	11	736	赤絵徳利											
	12	738	天目草花文平皿											
		13~21		※要検討(2024年以降)										

※要検討：今後、財団において調査の上、計画することが望ましい。

金工・その他

分類	番号	収蔵品番号	作品名	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
修理	1	786	黒黼塗鞘脇指拵											
	2	787	変り塗脇指拵											
	3	790	青貝変り塗脇指拵											
	4	791	黒黼塗脇指拵											
	5	792	青貝微塵塗印籠刻鞘合口拵											
	6	794	黒漆脇指拵											
	7	96	桜文象嵌鎧											
	8	587	銀洗台 三御飾道具											
	9	796	鳳凰に牡丹文玉皿(角皿、丸皿)											
		10~32		※要検討(2025年以降)										
模造復元	1	858	玉冠											
	2	252	琉球国王印											

※要検討：今後、財団において調査の上、計画することが望ましい。

借用資料

分類	番号	収蔵品番号	作品名	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
修理	1		兜の前立て											
	2		紅釉の椀 破片											
	3		五彩の椀 破片											
	4		粉彩の椀 破片											
	5		豆彩の椀 破片											
	6		林鴻年書 聯句											
模造復元	1		阿麻和利衣裳(頭巾・前立て)											
	2		千字文書											
	3		林鴻年書 聯句											

寄託資料

分類	番号	収蔵品番号	作品名	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
模造復元	1		絹紗青色地龍文衣裳											

(3)美術工芸品の保存管理の取組み強化

首里城美術工芸品を確実な保存・継承のため、美術工芸品と特別収蔵・展示施設の管理マニュアルを整備し、これを適切に運用し、必要に応じ適宜更新することが望ましい。

『美術工芸品等管理マニュアル（概要）』

1. 目的

首里城美術工芸品等の安全な保存・活用と特別収蔵・展示施設の適切な使用・運用のための手順を本マニュアルで定める。

2. 理念

首里城美術工芸品等の芸術的・歴史的・学術的価値を継承するため、保存・活用・防災に関わる管理を適正に行う。

3. 基本的な考え方

(1) 保存

・首里城美術工芸品を適正に保存するための管理体制および環境の整備を行う。

(2) 活用

・首里城美術工芸品の劣化が最小限となるよう効果的・効率的な活用を行う。

(3) 防災

・首里城美術工芸品の被災を防止または回避するための備えと緊急時の対応を行う。

4. 実施方針

○美術工芸品管理マニュアル編

(1) 保存

・所在管理・情報管理、保存環境、保存場所への立入り、保存方法、保存状態の把握、燻蒸、燻蒸、修理、安全確保についての管理方針

(2) 活用

・展示対象、展示累積期間、展示環境、効果的・効率的な展示、展示状態の把握、熟覧調査、情報の電子化についての管理方針

(3) 防災

・共通事項（日常の備え）、災害時の対応、災害後の対応についての管理方針

○特別収蔵・展示施設管理マニュアル編

(1) 施設性能

・施設・設備の使用・運用、用途・規模、設備（空調、照明、消火、防犯）、収蔵庫、付帯施設、展示室の管理についての管理方針

(2) 通常管理

・日常管理、適宜・随時の管理についての管理方針

(3) 防災

・共通事項（日常の備え）、災害時の対応、災害後の対応についての管理方針

(4)美術工芸品情報の一元管理化

美術工芸品の情報については、被害の状況を含めて一元管理化することが望ましい。現在運用中の管理システム「収蔵品台帳」へ状態確認調査結果の情報を追加するとともに、管理システム自体をより利便性の高いフォーム・ソフトに見直すことが望ましい。

4. 美術工芸品特別収蔵・展示施設に関する提言

首里城美術工芸品を管理する立場から、今後整備される特別収蔵・展示施設に対して必要条件を示すことが望まれる。その一方、早急に美術工芸品の保管場所を確保することが望まれる。

(1) 特別収蔵・展示施設の計画・整備の検討

① 施設の配置計画等

首里城公園内における特別収蔵・展示施設については、文化庁のガイドライン等や、国および県の首里城関連委員会等で示されている方針等に基づき、計画・整備されることが望ましい。

② 施設の建物仕様

首里城火災による被害の状況を踏まえ、特別展示室と特別収蔵庫に求められる建物仕様の主な内容は、以下のとおりとすることが望ましい。

特別展示室

部屋	課題	求められる主な内容
展示室	建物仕様	構造：耐火・耐震構造、主要構造物は鉄筋コンクリート造（もしくは鉄筋コンクリートブロック造）
		材質：間仕切戸は特定防火設備、耐火ガラス採用の際は防火措置を検討、もしくはスチールサッシを採用
		内装：壁等には不燃材を使用する
	設備	配置：屋外とつながる窓や出入口がある空間や縦穴区画と隣接・近接させない
		配管：通気ダクトは展示ケースとの位置関係を考慮した配管
		消火：室内への二酸化炭素ガス消火設備の設置
		防犯：盗難防止のため機械式防犯機器を効果的に組み合わせる
	環境	温湿度・照度：展示ケース内の機密性と適切な温湿度・照度環境の確保、空調方法は最新の方法・機器を採用
		措置：人から出る炭酸ガス等への対応
		遮断・緩衝：展示室外部からの温湿度や紫外線への対策
	配置	形態：特別収蔵庫と同一建物内に確保、収蔵庫との移動距離の最短化、展覧区画と保管区画を明確に区分
	その他	防虫：虫菌害対策を行うことが望ましい。

特別収蔵庫

部屋	課題	求められる主な内容
収蔵庫	建物仕様	設計：収蔵庫の大きさ確保、経験豊富な業者による設計・施工
		構造：耐火・耐震構造、主要構造物は鉄筋コンクリート造（もしくは鉄筋コンクリートブロック造）
		材質：間仕切戸は特定防火設備、耐火ガラス採用の際は防火措置を検討、もしくはスチールサッシを採用
		内装：外壁との間を二重壁で施工、内壁・天井・床を断熱層・不透湿層で施工、有害ガスを発生しない材の採用
	設備	配置：屋外とつながる窓や出入口がある空間や縦穴区画と隣接・近接させない
		配管：耐火性がある天井配管、余裕ある配管の収まり、火災時に消火水が浸入しない計画
		消火：庫内への二酸化炭素ガス消火設備の設置
		出入口：収蔵庫への扉について特定防火設備以上の性能の確保と耐火・防犯性能の高いものの導入
		収納棚：収蔵品を長期間安全に保管できるものとする、地震等による棚の移動・転倒・ねじれ・収蔵品の落下が起きない仕様・形状、棚の下部を床面より 20～30 cm開ける
		防犯：盗難防止のため機械式防犯機器を効果的に組み合わせる
	環境	温湿度・照度：収蔵庫の機密性と適切な温湿度・照度環境の確保、空調方法は有識者の指導・助言に基づく方法・機器を採用
		措置：人から出る炭酸ガス等への対応
		遮断・緩衝：収蔵庫外部からの温湿度や紫外線への対策
	配置	形態：できるだけ単独施設として配置、隣接建物との間で十分な延焼防止措置を行う
		階層：特別収蔵庫は原則として地上 1 階に配置
		床高：湿気や水害を防ぐため収蔵庫床面を地表から十分に離す
	附室	修理：収蔵品の修理を行うための修理室を設ける
		活用：調査兼撮影室を設ける
		搬出入：トラックヤードの設置
	運用	収納：収蔵品は収蔵庫で保存することを原則とする
その他	防虫：虫菌害対策を行う	

その他施設

部屋	課題	求められる主な内容
EV	耐火性確保	材料：縦穴はコンクリートあるいは同等の耐火性能を確保
EPS、PS	他の部屋との共用	設備：日常点検口がある部屋等の共用はやめ独立性を確保

(2)首里城美術工芸品の保管場所の確保

首里城の火災により公園内の特別収蔵・展示施設が失われ、首里城美術工芸品は現在、県内の主要博物館・資料館等に一時保管されているが、公園内に再び特別収蔵・展示施設が整備されるのは当面先のこととなる。したがって早急に、首里城美術工芸品の保管場所の確保に努めることが望ましい。保管場所の確保と関連して、同じ建物内に修理室を確保し、劣化した首里城美術工芸品の修理が行えるようにすることが望ましい。

5. 今後の課題

首里城美術工芸品の保存管理や修理・復元計画等の実施段階において、以下の課題を念頭に置いて進めることが望ましい。

(1) 特別収蔵・特別展示施設の使用

- ・美術工芸品等の収蔵・展示は、適正な温湿度管理や防災対策がなされるなど、必要な機能・仕様を備えた特別収蔵・特別展示施設内で行うことが適切である。
- ・美術工芸品等は、通常は専用の桐箱や中性紙箱に収めて特別収蔵施設に収蔵し、展示や調査などの活用は必要最小限の回数とするなど、細やかな保存管理が望まれる。

(2) 美術工芸品等の適切な保存管理

- ・美術工芸品等について、定期的な状態確認およびメンテナンスを実施することにより、異常の早期発見や劣化要因の除去、経年変化の管理をより確実に行うことが望まれる。
- ・劣化が進行している美術工芸品等は、直ちに修理を施すことが望ましい。修理が施された美術工芸品等は、災害にあった場合も被害規模を一定程度抑制することができる。
- ・美術工芸品等管理に携わる学芸員や文化財保存担当者の知識や技術の維持・向上に努めることにより、美術工芸品の保存・継承を図っていくことが望まれる。

(3) 修理や模造復元に向けた人材育成・環境整備等

- ・首里城美術工芸品の被害は前例のない規模であることから、修理を担う人材または模造復元を担う人材の育成を、沖縄美ら島財団として積極的に取り組んでいくことが望ましい。加えて将来的には直接修理を行える人材の確保していくことが望まれる。
- ・分野毎に、修理や模造復元を担う人材と、それを監修する有識者・専門家により構成される実施体制を確保することが望ましい。
- ・修理や模造復元は長期に渡ると見込まれることから、専用施設の確保および協力先の確保に努め、見通しを立てておくことが望ましい。
- ・国内の美術工芸品等管理の分野に活用できるよう、今後実施される修理や模造復元に関する過程や結果の情報を蓄積しておくことが望ましい。
- ・修理や模造復元にあたり、専門家や修理を担う人材による見積り作成によって修理費または模造復元費を把握し、計画的に実施していく必要がある。
- ・美術工芸品の修理については、“首里城基金”や火災保険金、県や民間の助成金を活用していくことが考えられる。
- ・模造復元を安定的に実施していくため、民間助成金等を活用することが考えられる。

(4) 美術工芸品等管理に関する情報公開

- ・首里城美術工芸品等の修理および模造復元に対して、県内外の注目が集まっていることから、修理・復元等の取組みや進捗状況を随時、報告・公開するなど情報発信を行うことが望ましい。

(5)美術工芸品等の防災対策

- ・美術工芸品はその都度、定められた場所に収蔵・展示し、周辺を片付けておくなど、万が一に災害が起こった場合でも事後対応がスムーズに行えるよう、備えておくことが望ましい。
- ・万が一の災害発生に伴う美術工芸品の避難・収蔵を想定し、県内博物館施設等との協力関係を構築し連携していくことが望ましい。

(6)保存管理・修理・模造復元にあたっての国・県との認識の共有

- ・本報告書にとりまとめられた美術工芸品の保存管理、修理・模造復元の実施の際、国や県へ随時または定期的に情報を共有し、必要に応じて指導・助言を仰ぐことが望ましい。